



BMW M4 (エムフォー)

→松村さんの「M4」そのスタイルはスポーティで本当にかっこいい



↑足回りを飾るBBS社製鍛造(たんぞう)ホイールFI-R 1セットでワゴンRが1台買える



→竹元さんのBMW 218dファミリアカーながらBMWの堂々たる風格溢れる1台

←シビックFK8のエンジン内部



BMW 218d (ニイチハチディー)

↑ここに密かに加藤先生のFIAT 500

松村さんの車はBMWの「M4」今まで乗った車は10台。その内4台がBMWの2ドア車だそう。

一番のお気に入りには「M4」の他に「M3」も乗った。BZインのBZインのホイールを斜めから見た時の感じがたまらない。

踏み込む時の加速が凄く、3リ直列6気筒ツインターボで450馬力、さすがMシリーズ、伊達じゃない。

因みにBMW純正のエアロパーツも付いているので総額1500万円くらいかかっているそう。足回りだけでワゴンR1台分にもものぼる。

「そんなに高価でなくて速い。高価で速い車よりも、どうやって速く走らせるか考えて乗るのが楽しい」と、シビックと共に走りを楽しんでいる様子を話してくれた。横で聞いていた松村さんは「僕はお金の力で速い車を買ってしまった」と笑う。楽しい雰囲気の中にも、その風格とゆとりに圧倒されるすごさを感じた。

童夢の2人が選んだのはBMW

竹元さんの愛車はBMWの「218d」だ。乗り比べて「これが一番楽しかった」という4気筒ディーゼル車だ。

童夢の人達はみな車好き。だから駐車場の隅に古い車も置かれていたり、車も乗ってみたいものだ。(竜)

あつかましくも、童夢のお二人に、愛車を見せてください！とダメもとでお願いしました。愛車は複数台お持ちでしたが、取材日に通勤で乗ってきておられた車を快く見せてくださったお二人の心の広さに感動。車のかっこよさに惚れ惚れ。働く姿も超かっこいい、車好きな大人の愛車を紹介しよう。

く走らせるか考えて乗るのが楽しい」と、シビックと共に走りを楽しんでいる様子を話してくれた。横で聞いていた松村さんは「僕はお金の力で速い車を買ってしまった」と笑う。楽しい雰囲気の中にも、その風格とゆとりに圧倒されるすごさを感じた。

童夢には工場を兼ねる本社の他に米原工業団地内に風洞実験施設「風流舎」がある。風流舎はムービングベルト風洞実験施設で、本物のレーシングカーの50%、つまり2分の1サイズの模型を使用して空気抵抗やダウンフォース、更に設計したデータが3次元でレースのレギュレーションに違反していないかなどを計測・確認する。この風洞は大型のファンが回転して空気を回流させて最大60%の風を起す。大抵速くとも50%までだと言う。実験中は「会話をするのがやっ」と述べる竹本さん。相当うるさいようだ。

ふうどう ふうりゅうしゃ 風洞実験施設「風流舎」工場内部に潜入

次に工場を見学した。素材となるカーボン繊維の保管庫や加工に使う工作機械、塗装ブースなどの設備が揃い、カーボン製品作りの万全の体制が取られている。これから納品されるレーシングカーが組み立てられている現場もあった。他にも依頼を受けてメンテナンスを受けているマシンも複数あった。普段サーキットでも見ることもないボディに隠れたメカニカルな部分が見えて、エンジン・サスペンション・ブレーキなど、全てが高い技術に基づいて設計された物だということが見て取れた。



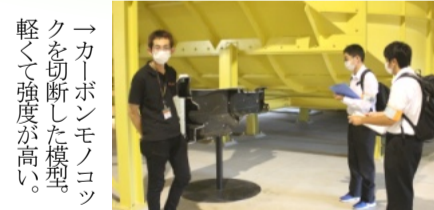
↑メンテナンスを受けているマシン



←右側が風洞実験をする部分。床はムービングベルト



↑50%模型と記者(竜) 実験室のダクト(空気が回流している所)



→カーボンモノコックを切断した模型。軽く強度が高い。

取材を終えて

今回童夢を取材することができてとても嬉しいです。様々なマシン、伝説の童夢やキャスピタを見せていただきました。童夢の持つ様々なレーシングカー製作のための設備、製作途中やメンテナンス中のマシンを間近で見ることができ、忘れられない経験となりました。日本のモータースポーツ

僕らは車のことはあまり詳しくないけれど、松村さんの話が印象に残りました。「夢なんていっぱい描けるだろう。夢は大きく、目標を細かく具体的に決めて聞いて、自分はそれに対して聞いて、自分はその綿密な計画を立てようと思えます。(都)

はっち-クイズ 答え A1 レーシングカー

カーボンモノコックという、いわばレーシングカーの幹の部分です。チョー硬くてチョー軽くてチョー高い。コレだけで1000万円はくだらない。ココがドライバーを守る安全性能の要なんです。(切断面は上の写真を見てね)



組み立て中

社運を握るフォーミュラリージョナル

現在の童夢が社運を懸けて取り組んでいるのがフォーミュラリージョナルだ。

これはFIA(国際自動車連盟)が2019年から始めた新規規格のレースカテゴリーだ。童夢はホモロゲーション(認証)を取得するために「童夢F111/3」を開発し販売している。

このマシンはボディ・モノコック全てがカーボンで構成、新規規格対応の安全装備「ハロ」がコックピットに設置され、安全面も最先端の水準。童夢の技術力が注ぎ込まれたマシンとなっている。

社名「童夢」に込められた思いが、フォーミュラリージョナルの成功にかかっている。成功が保証されていない、誰もやったことのないことに、挑む大人の姿がそこにあった。

次なる「少年の日の夢」に向かって進む大人の姿がかっこいい。

